

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の視点に立った理念を作成し、目に入り易い所に掲示し意識できるように心掛けている。	地域に密着した生活を送ることを理念の中に取り入れて、ユニット独自の理念も作成されていました。日々目に付くよう、各ユニット・トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、ミーティングでも確認の機会を設け、理念の実践に向けた話し合いが行われています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報を回覧させて頂きお祭り等、定期的に行事に参加させて頂いている。	ホームのクリスマス会やありがとう会、作品展には地域の方も参加していただいています。また、地域の方が野菜を持ってきてくれたり、阿賀野高校の文化祭へも出かけるなど地域との交流に努めています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の集まりに参加させて頂き、自宅介護の様子を聴いたり、助言させて頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中から出た意見等を職員に周知し今後のサービスに活かせるようにしている。	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生委員・ご家族代表に出席していただき、活動報告やご利用者の状況報告など事業所の状況を伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取り組みがされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所高齢者福祉課の方に参加して頂き協力関係を築いている。	市の担当者には運営推進会議にも参加して頂いており、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。また、相互に行き来し、相談や協力ができる関係が構築されています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しない事を基本としているが、転倒等危険のある方には、説明し理解を頂きながらベット柵や布団に鈴等を使用している。	外部研修への参加や新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。やむを得ず行う場合はご家族の同意と状況報告がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己学習や研修会等で学ばせて頂いている。	身体拘束同様に新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して学ぶ機会を作りながら、随時相談には応じている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項書類にて説明させて頂き、その後署名を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にご家族からの意見等を聴き今後いかせるように努めている。	9月の敬老会の後にご家族同士の座談会を行い、ご家族からの意見・要望も確認し、サービスに活かせるように努めています。また、ご家族には面会時のほかクリスマス会やありがとう会にも参加してもらい、意向を確認する機会も設けています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や日頃から意見を聴けるように努めている。	毎月の職員会議や年に2回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。また、会社でも職員の思いを確認するアンケートを行っており、職員の意見を把握できるように努めています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務の考課と自己評価を実践し、職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、外部研修を推奨している。社内研修の実施も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内4GH交換研修、社内研修を行いスキルアップに努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配事をお話頂けるような会話の場を作れるよう心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時の会話等から要望、相談をお聞きし連携をとりながら関係を深めていくようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議で必要としている事を話し合い、他にも活かせるよう対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の特技を活かし進んでできる事はして頂き、残存能力を十分に出せるよう心掛けている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	温泉旅行、遠方への帰省、一緒に行事に参加して頂き、楽しみを共有して頂いている。	毎月の請求書と一緒に担当職員よりお手紙をお送りしたり、2ヶ月に1回広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。ご家族にも事業所のクリスマス会や敬老会に参加していただいたり、ご利用者と一緒に月岡温泉へ旅行に行くご家族もいて、ご家族にも協力して頂けるよう努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所、同僚、教え子等へ手紙や年賀状を出されたり、ボランティアに来て頂けるよう支援させて頂いている。	センター方式を採用し生活暦をより把握するようしており、ご利用者の要望に応じて行きつけの美容室や図書館に本を借りに出かけたり、スーパーへの買い物も一緒に行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業、レクリエーション等を通し関わり合える支援を心掛けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様がボランティアに来て下さり、利用者様と交流を深められている方々もおられ、今後も大切にしてゆきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望に耳を傾けながら、お聞きしご家族様とも話し合いながら支援に努めている。	サービス担当者会議にはご家族にも参加していただき、ご家族と話し合い検討をし、面談によるご利用者やご家族からの聞き取り情報は介護要約として職員間で共有するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話をセンター方式への記入から把握し安全、安心を保持できるようにしている。	これまでの生活の様子を把握するため、ご家族にも協力してもらいセンター方式の書類を記入してもらっています。居室担当の職員ごとに情報を記入し、職員間で共有できるようにしています。また、日々のご利用者とのやりとりのなかで新たに確認された情報についても追加記入するようにしています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の流れを個人記録、申し送り等で把握しどのような変化にも対応できるよう心掛けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の全体ミーティングにて、意見を出し合っている。お互いの意見を尊重し、活発な意見交換ができています。	毎月行われている全体ミーティングにおいて各ご利用者のケア等について話し合いをしており、介護計画が作成されています。半年に1回の期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、全職員が参加する全体ミーティングと毎月のモニタリングにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	介護計画の目標と毎月のモニタリング項目に連動していないところもありましたので、連動できるよう検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の各担当職員が個人ファイルにまとめている。全体ミーティングにてモニタリングを行い情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族より、衣服購入の希望があり、お店にて好きな衣服を選んで頂き購入されている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生日会での慰問や行事でのお手伝い、外出時のボランティアなど協力して頂いている。又、避難訓練にも参加して頂き協力して頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際、利用者様の状態を適切に伝えられるよう、医療機関連携表に記載したものを持参してもらっている。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。基本として受診の同行はご家族となっているため、書面や電話にてご利用者の情報伝達が行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルと医療連絡表に様子を記入し、受診時医療機関へお渡しし、指示を頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様に異変があった時には、ご家族様へ報告している。医療機関が勧める対応方法を実践している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護についてはご家族様へ現状を報告し対応を検討している。職員会議等で看取りについての勉強会をしている。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要なければ最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でも研修を実施し、その方針は共有されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルの設置、通報訓練を行っている。日中は主治医、夜間は救命センターに指示をもらい連携を習慣化している。	年1回救急法の講習が会社で行われ職員が受講されているほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への徹底もされており、事故発生時にも適切な対応ができるように努めています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に参加して頂き、地震災害訓練、消防訓練を年2回行っている。災害について、マニュアル作りを行った。	年2回の避難訓練には地域の方にもご参加いただいております。夜間を想定した訓練のほか地震を想定した訓練も行われています。	非常用食品の確保はされていましたが、調査時点で消費期限が切れている品もありましたので、定期的に確認されることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを留意して、その人らしい生活が出来るように対応に努めている。接遇チェックを行い、振り返りよりよい対応に努めている。	職員は入社時に個人情報に関する同意を行い、ご家族にも広報に掲載するご利用者の写真の同意も得られています。また、2ヶ月に1度接遇のチェックを行い、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重するような声かけが出来るよう努力しているところです。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体という事を念頭において業務を遂行するよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべくご自分で衣類が選択出来るように心掛けている。意思疎通が難しい方には、職員と一緒に選ばせて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき、盛り付け、配膳の片付けなど、お手伝いして頂いている。	ご利用者にも、野菜の皮むき・盛り付けなどの準備、片付けも協力してもらっています。また、外出に出かけたり、ホームの畑で育てたトマト、なす、かぼちゃの収穫もご利用者と一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様にあった量や盛り付けを行い召し上がって頂いている。水分をあまり飲まない方には、ポカリやお茶をゼリーにし召し上がって頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後ご自分でできる方には、声かけにて行って頂いている。できない方には見守り介助にて行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間に失禁のある方などには、声かけにて排泄の支援を行っている。	水分・排尿・排便のチェックを行ない、時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事中のお茶のおかわりの声かけや日中軽い体操をして頂くようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様に声かけにて楽しく入浴して頂けるように心掛けている。	入浴時間はご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛けを行うなど工夫がされています。月岡温泉の足湯にもご利用者と一緒に出かけています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時まで自由に過ごしていただき、入床時は気持ちよく休んで頂けるよう声かけの支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬を把握し誤薬のないよう、服用前後の確認と様子観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や得意な事を探り、その方にあった支援を心掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に、買い物や散歩、ドライブなど外出の機会を作るよう努めている。	季節に応じたお花見やあやめ見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理をしている方もいる為、見守りを徹底している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と手紙のやり取りを行っている方がいられます。電話を希望された方には掛けて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地良く過ごせるように、清潔を保ち季節の壁画や歌を作り工夫している。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるようになっています。また、季節を感じる花やご利用者の習字の作品の掲示などもされており、居心地のよい空間が作られています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて編み物をされたり、テレビを見られたり、気の合う利用者様の居室に遊びに行かれたり自由にして頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のご家庭で使用していた、使い慣れた物を持参して頂くようお願いしている。	ご利用者の愛用していたものの持込みや写真の掲示など、一人ひとり個性がある部屋となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ない部分はお手伝いさせて頂き、動きの妨げにならないように工夫をしている。		